

# 診療ガイドライン作成における文献検索

## ーエビデンスレベル、推奨度との関連を中心にー

大谷 裕

東邦大学医学メディアセンター

近年、EBM の手法に基づいた診療ガイドラインの作成が盛んである。そして診療ガイドライン作成における文献検索を医学図書館員が担当することが増えてきている。

このような中、いくつかの診療ガイドライン作成のための文献検索に携わる機会を得た。実際の作業としては医療従事者から提示される Clinical Question (臨床上の疑問) について検索を行うのだが、その検索結果を見ると必ずしもエビデンスが高い文献ばかりが存在するわけではなかった。また場合によっては該当文献が数件しかなかったり、逆に膨大な数の文献が Hit して、どのように絞り込むか苦慮したりといった状況も存在した。これはもとより自身の検索スキルの未熟さに因る部分も大きいですが、そもそも Clinical Question に対する適切な論文が存在しない場合や、Clinical Question そのものが曖昧な場合もあったかと思われる。実際、医療従事者からも Clinical Question 作成における適切なキーワードの選定や、必ずしもエビデンスレベルの高い文献が多くない中でガイドラインを作成することの難しさが語られている<sup>1)</sup>。

このように診療ガイドライン作成の舞台裏には様々な状況がみられるが、医療従事者が、文献検索担当者から提出された文献リストに対し、“重要論文が落ちている”、“数が膨大すぎる”など戸惑いの声をあげているのもまた事実である<sup>1)2)</sup>。そこで今回、2010年に刊行された「肝硬変診療ガイドライン」を題材に、適切な文献検索の方法について検討を行う。

### 【方法】

Clinical Question に対して検索された文献群と、実際にガイドラインに引用された文献群の関連について調査を行い、検索式の立て方や、検索結果に含まれなかった文献でガイドラインに引用された文献の特徴について検討を行う。

### 【対象】

肝硬変診療ガイドライン (2010年刊) 全 99 個の Clinical Question に対し、検索式に従って検索された 10,228 論文とガイドラインに引用されている 529 論文。

### 引用文献

- 1) 小室裕造. 診断に関するクリニカル・クエッションを作成して.  
形成外科 ; 54(2) : 117-125. 2011
- 2) 石田有宏. 小児眼窩底骨折治療に関するクリニカル・クエッションを作成して.  
形成外科 ; 54(2) : 147-155. 2011